

今吉標本(I)

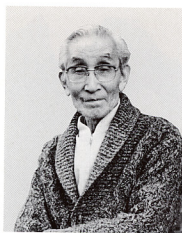
豊 通 秋 (地質部)
Michiaki Bunno

奥 山 康 子 (燃料部)
Yasuko Okuyama

坂 巻 幸 雄 (鉱床部)
Yukio Sakamaki

今吉標本は かつて国立科学博物館で鉱物標本の収集・整理の任に当っておられた今吉隆治氏が 1920年頃から最近に至るまで60余年間に亘って 勤務のかたわら自力で収集された鉱物のコレクションである。総点数は1万点以上に達するこの膨大なコレクションは1983年3月 氏によって地質調査所に寄贈され おりしも1982年に創立百周年を迎えた本所の記念事業の一環としても実にふさわしいものとなった。

今吉標本の特長は、1) 国内の主要鉱物産地の産出標本を系統的に網羅している 2) 我国に産する鉱物種 約840種のうち約600種を含み 外国産の標本を加えると1000種を超えるものである。3) ほとんどが氏自身が調査し採集したもので産地・産状がよく判っており研究用としての価値が高い。4) 戦前から現在に至る一貫したコレクションであるので 今日 他に入手の手段のない絶産となった標本が多数含まれている。



今吉隆治氏 (1905-1984)

等の諸点であって 総合的にみて質・量ともにすぐれたコレクションといえることができる。

地質調査所は今吉標本を研究・普及の目的で最も有効に利用できるよう責任をもって管理し、現在地質標本課を中心に標本の分類・整理・登録等の作業をすすめている。

3回に亘って今吉標本の中から代表的な標本を紹介する。



写真1

岐阜県神岡鉱山産 自然銀 (Native silver: Ag 等軸晶系) (GSJ M16704)。高熱交代鉱床に産し 閃亜鉛鉱の結晶上にヒゲ状結晶をなす。白色銀頭状結晶は方解石。(×1)。



写真2

福島県鈍子岩 (ドンスイワ) 鉛山産 閃亜鉛鉱 (Sphalerite ZnS 等軸晶系) (GSJM 16706) 浅熱水性鉱脈鉱床に産し 四面体の結晶の集合をなす。黄銅鉱結晶をとまなう。(×1)。

秋田県尾去沢鉛山産 黄銅鉱 (Chalcocopyrite : $CuFeS_2$ 正方晶系) (GSJM 16607) 浅熱水性鉱脈鉱床に産し 自形結晶の集合をなすものでいわゆる「耳つき双晶」が多く見られる。(×1)。

↓ 写真3





写真4

秋田県阿仁鉱山産 方鉛鉱
(Galena: PbS 等軸晶系)
(GSJ M 16705).
浅熱水性鉱脈鉱床に産し
立方体の結晶の集合をなし
表面を方鉛鉱に覆れた閃亜
鉛鉱の球状結晶をともなう。
($\times 1/2$).



↑ 写真5 静岡県岩科鉱山産 黄鉄鉱 (Pyrite: FeS_2 等軸晶系) (GSJ M 16708).

浅熱水性鉱脈鉱床に産し e(210) を主面とする12面体結晶をなす。今吉氏は昭和26年から約2年間 当鉱山所長を務めた。($\times 1$).



← 写真6

岐阜県平瀬鉱山産 輝水鉛鉱 (Molybdenite MoS_2 六方晶系) (GSJ M 16711). 花崗岩中の石英脈中に産し 六角板状結晶をなす. 本産地のものは大型で 結晶面の発達がよくものを産することで有名である. (×1).

埼玉県秩父鉱山産 車骨鉛 (Bournonite PbCuSbS_3 斜方晶系) (GSJ M 16703) 高熱交代鉱床に産し 柱面の条線が著しい短柱状の自形結晶の集合をなす. 閃亜鉛鉱 方鉛鉱 硫砒鉄鉛 黄銅鉱等をともなう. (×1).

↓ 写真7

